

全国公募

「300句首」

笑いで老いを吹っ飛ばそう！

みんなで作った

おい らく しょう か

老楽笑歌

2

林 あや子 編

サトウサンペイ

東海林さだお

砂川しげひさ

選



2004年9月20日 初版発行

編 者 林 あや子

発行者 大渡 肇

発行所 株式会社保健同人社

〒102-8155 東京都千代田区一番町4-4

電話 03-3234-6111 (代)

HP <http://www.hokendohjin.co.jp>

振 替 00140-6-195185

印刷所 株式会社双文社印刷所

ISBN4-8327-0294-7

許可なく転載・複製を禁じます。

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

全国公草

みんなで作っ

「300句首」



あや子編

らく

しょう

か

たて 草 果 笑 歌

②

蘇江で老いを吹っ飛ばそう!

サトウサンペイ

東海林さだお 選

砂川しげひさ

編集協力 辻田三樹恵
ブックデザイン 福栄治憲

『みんなで作った 老楽笑歌②』はこうして生まれました

昨秋、小社では80歳の女性が自らの老いをユーモラスに描いた『老楽笑歌』（林あや子さん著）を出版し、思いがけないほどの反響をいただきました。

愛読者カード等では、「老人にも元気を与えられた」

「こんなふうに見えるば老いが楽しくなる」等という感想とともに、続編を望む声も多数ありました。同時に、

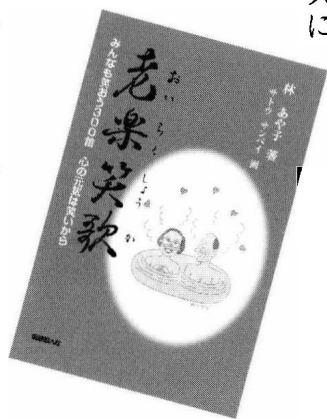
「自分も書きたくなった」という声も多く、実際に

自作の歌を書き添えてくる方もいらっしゃいました。

そのような声にお応えしようと、「読者の方が作る『老楽笑歌②』を出版します、どなたでも作品をお寄せください」と公募しましたところ、19歳から91歳までの方から3906点もの短歌・川柳・俳句が寄せられました。平均年齢は72歳です。

なかには、生まれて初めてこういうものを書くために筆を執ったと記された方もいらっしゃいました。

老いて孤独ではなく、老いて発信。すばらしいことです。



できることなら応募作品を全部載せたいと思います。ところが、編集の都合でそうもまいりません。そこで、笑いの達人である漫画家のサトウサンペイ先生、東海林さだお先生、砂川しげひさ先生に、「老いを楽しみ、笑う」を基準に共感を得る作品を選んでいただきました。先生方はユーモアに加えて、しみじみとした味わいや句としての香り高さを持つ作品も選択されました。

こうして選ばれた30近くの作品に、前回の著者・林あや子さんの新作、選者の三先生の作品をプラスして、本書は誕生しました。

この『みんなで作った 老楽笑歌②』は、作った方と読まれた方の「笑いで老いを吹き飛ばす」大合唱のようなもの。

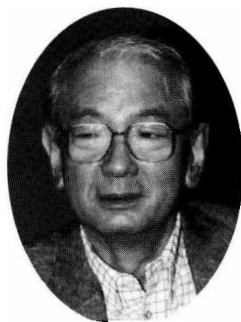
みんなでより実り多き長生きを楽しんでいく。いいですね。



選考会にて（右から、サトウサンペイ先生、東海林さだお先生、砂川しげひさ先生、林あや子さん）

選者のことばと笑い歌・川柳

サトウサンペイ先生



「おいらくしょうか老楽笑歌②」の一般公募で選者をしてくれと頼まれました。ところが、公募要綱には俳句も川柳も含まれていたのです。私はこのごろ耳が遠いので電話口で聞き漏らしたのだと思います。

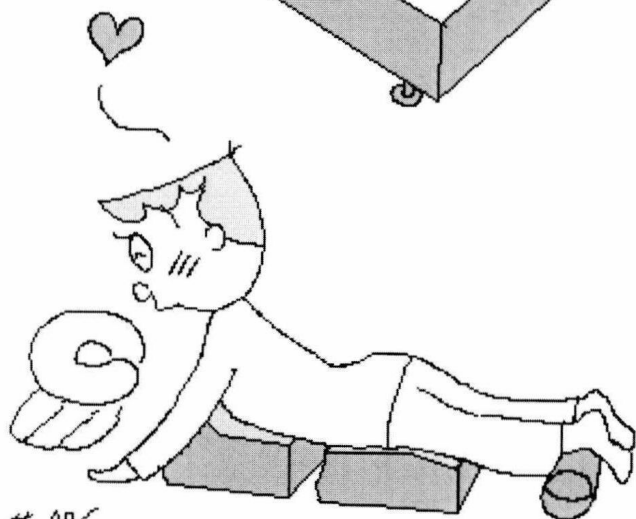
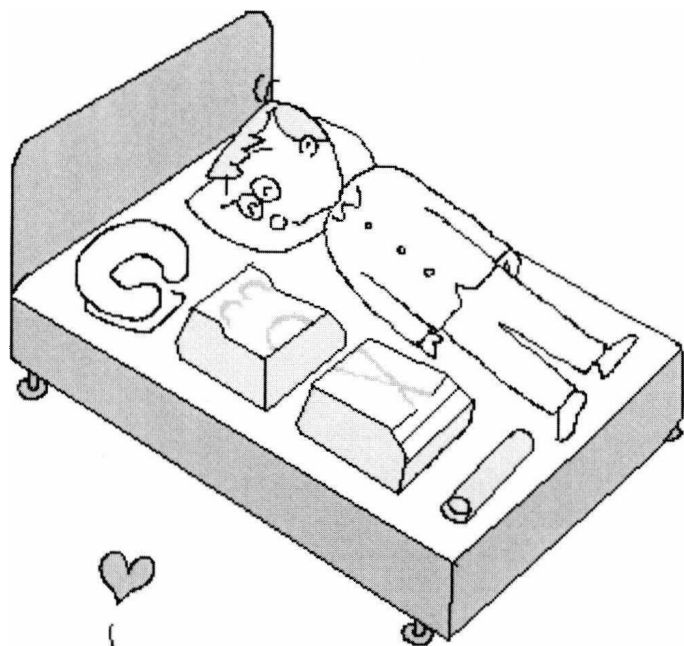
川柳は笑いの同族ですから、漫画家が選者でもよいかもしれませんが、俳句の選者はいかなものかと、選考会場でひともめました。

かといって、今さら変更もならず、まあ、とにかく三人が、心をこめて感覚を研ぎ澄まし、選ばせてもらうことになったのです。

ご覧のとおり佳作、秀作ぞろい、きつと俳壇、歌壇の大御所でも、選考には迷われたことと思います。

[サトウサンペイ先生笑い歌]

うつ伏せに寝る健康具買いにけり
乗ればむっちりウレタン^{はたち}二十歳



サンペイ

東海林さだお先生



優れた作品が多く、選ぶのに大変苦労しました。
みなさん元氣一杯、老いてますます盛んの感を受け
ました。

ユーモアというのは、自分を客観視できないと生ま
れないように思います。

どんなことでも笑いとはせるといのは、心の余裕
があるからではないでしょうか。

ユーモアは価値観の一つだとぼくは常々思っていま
す。

一般的には、真、善、美、で表す場合が多いのです
が、ぼくはこれにユーモアを加えたいと思っています。
真、善、美、ユーモア。

こういう世の中になったら、どんなにすばらしいこ
とでしょう。



老年デビューおでこ眼鏡を初体験

砂川しげひさ先生



老いなんてずっと先のことだと思っていたら、あっという間に六十を越えてしまった。

頭部も過疎になる、目ん玉もかすむ、下半身も萎える、老いなんてつまらない。

そんな矢先、林あや子さんの「老楽笑歌」に出会った。なんとという明るさ、なんとという冴え、老眼の目ん玉からウロコがポロリポロリ。「老いを笑いとばせばいいんだ」という心境になりました。

今回の応募作品をみて、どれもこれもほんとにお年寄り？と疑いたくなるほどの大元氣。マイナス思考がみじんもなく、いつまでも生きる気まんまん（周囲の迷惑も考えず？）に圧倒されました。中でも、ぼく自身、身体に爆弾を抱えているせいか、この歌にはうなつてしまった。

部品無き廃車の走る不思議さよ

胃のなきわれを乗せて風切る

トントンと階段のぼりしは昔ナリ
いまドツタンバツタンと転がりおり



● 目次

『みんなで作った老楽笑歌②』はこうして生まれました	3
選者のことばと笑い歌・川柳	5
サトウサンペイ先生／東海林さだお先生／砂川しげひさ先生	
短歌	13
川柳	39
俳句	63
林あや子・笑歌	87
選者プロフィール	94
作品募集のお知らせ	95

短歌

三人の選者&林あや子さん

みんなで選んだベスト傑作

炎天を二匹のしゃもが行くに似て

茶髪なびかせ若者は行く

(東京都 永澤良子 75歳)

自転車のきしむペダルを気にしつつ

やっと見つけしパートに向う

(福島県 西岡 孝 80歳)

短歌

部品無き廃車の走る不思議さよ

胃のなきわれを乗せて風切る

（埼玉県鈴木篤生 71歳）

来るたびにいたずら進む外孫に

守備態勢の戦術を練る

（神奈川県木幡文雄 69歳）